

この研究でわかったこと

- ・約12.6〜10.0 ka※1において ※1)ka = 1000年前
Aulacoseira 属の顔ぶれが変化
 ▶ 11.7 ka頃の温暖化による
 降水量の増加と水深増加,
 栄養塩供給量の増加に伴う
 富栄養化※2を反映 ※2)湖の栄養が
 豊富になること
- ・約12.3 ka・11.8 ka, 8.0 kaにおいて
Eunotia 属が多産
 ▶ YDイベント※3, 8.2 kaイベントの
 寒冷化を反映 ※3)ヤンガードリアスイベント
- ・約16.5 kaにおいて,
 珪藻殻量と浮遊性種が増加した
 ▶ 晩氷期の諏訪湖での温暖・湿潤化は
 北部大西洋周辺に比べて
 千年程度早く起こった